

公教育の課題と今後のトレンド

Link and Create

福島 毅

www.linkandcreate.com
linkandcreate@gmail.com

最近は、こんなことに力をいれています

リアルとオンラインを融合した新しい双方向コミュニケーション ハイブリッドオンライン



[ホーム](#)

[プロジェクト概要](#)

[ブログ・公開動画](#)

[お問い合わせ・ご依頼](#)

ハイブリッドオンラインの世界へ



GEWELオープンフォーラム2017より

ハイブリッドオンラインとは

ハイブリッドオンラインとは、リアルなイベントをオンライン側に配信するのみならず、オンライン側からの質問、意見、感想などもリアル側へフィードバックすることができる双方向コミュニケーションの技術です。

イベントの単なる中継はいままでもありました。しかし、ハイブリッドオンラインでは、テレビのように見る一方・聞く一方で会場とは一体感がとれなかったイベントを、リアルとオンラインが一体感を持って双方向に交流できるものに変える画期的な仕組みです。

また、いままで、参加はしたいと思っても、旅費や宿泊費、移動時間などの確保で出席を躊躇していた参加者を広く巻き込むことができます。

演者のプレゼンデータも画面シェアにより、オンライン側には鮮明に映され、リアル会場のスクリーンを見るよりむしろはっきりと捉えることが可能です。

最近は、こんなことに力をいれています

学びの自由度を究極に高く・・・

いつでも どこでも だれとでも学びをクリエイト

柏まちなかカレッジ



[まちカレについて](#)

[活動中のプロジェクト](#)

[過去講座一覧](#)

[予定表と申込み](#)

[活動ブログ](#)

[English](#)

[関連リンク](#)

[お問い合わせ](#)

-

[まちカレ図書館](#)

[柏まちなか映画館](#)

[魁!!!歴史塾](#)



プロジェクトのご紹介



まちカレ図書館

柏のまちなかのあちあ



柏まちなか映画館

柏まちなか映画館

2019年1月～11月。

期間限定で柏のまちな



魁!!!歴史塾

歴史の考え方を学び、

読書会

柏まちなかカレッジでは、分かち合う読書を企画しています。詳しくはサブメニューで。

過去プロジェクト

これまで取り組んできたプロジェクトをご紹介します。詳しくはサブメニューで。

3部構成です

第1部　いま、世界に
　　そして日本に起きつつあること

第2部　教育最先端事情

第3部　組織論と
　　エデュケーショナル・リーダーシップ

第1部

いま、世界に、
そして日本に起きつつあること

第1部のトピック

- 文明の変遷
- VUCAの時代
- ダイバーシティ & インクルージョン
- 生命体組織

文明の変遷

狩猟採取社会
人類誕生～

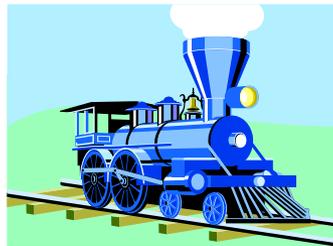


農耕社会
約1万年前



その場しのぎの生活不安からの解放
食料のストックと安定供給

産業革命
(工業革命)
18世紀



過酷な肉体労働からの解放
飛躍的な生産力アップ
物流・人の交流

情報技術革命
1980以降



単純な知的作業からの解放
知的作業の機械化・自動化
知のネットワーク化・共有

狩猟採取時代

生きていく上での必要な学び

- ・狩の方法
- ・食べられる植物の見分け方
- ・集団生活のルール
- ・簡単な言語



農耕社会

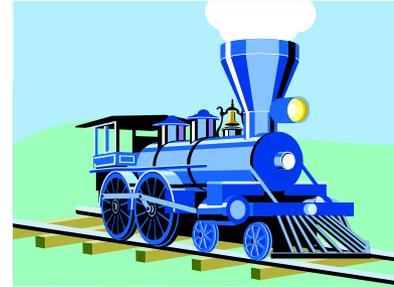
約1万年前～



生きていく上で必要な学び

- ・耕作の方法
- ・情報を伝える文字や記号
- ・暦や自然に対する理解
- ・やや高度な言語
- ・道具、日用品(衣食住)
の生産や使い方に関すること

産業革命（工業革命） 18世紀～



生きていく上で必要な学び

- ・農業生産、工業生産に関わる近代科学
（数学・物理・化学・生物学など）
- ・社会構造を支える学問
（法律、経済など）
- ・大量生産、大量消費社会を支えるために必要な教育
（生産マニュアル、事務作業など）
- ・学問発展自体が目的化
（今日の社会において、細かく体系化されている学問）

情報技術革命 1980～



生きていく上で必要な学び

- ・新たな価値やサービスのイノベーションに関わること
（単純な情報蓄積や計算判断はコンピュータが行う）
- ・高度なコミュニケーション手段
（違った価値に対する理解や意思伝達、合意形成）

第4次産業革命

現在



1983 Industrial Robots KUKA 
IR160/60, 601/60

- ・デジタル革命に基づく
- ・技術が社会内や人体内部にすら埋め込まれる
- ・ロボット工学、人工知能、ナノテクノロジー、量子コンピュータ、生物工学、モノのインターネット(IoT)、3Dプリンター、自動運転車など
- ・これらの技術は数十億人をウェブに繋げ続け、事業と組織の効率性を劇的に改善し、より良い資産管理を通じて自然環境の再生に役立つ大きな可能性を秘めている (Wikipediaより)

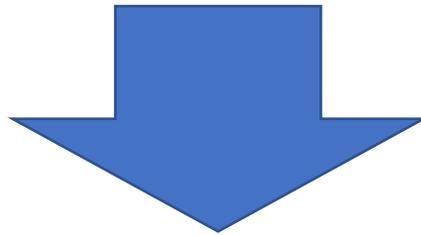
生きていく上で必要な学び

- ・人間間、人間と機械のコミュニケーション
- ・複雑な課題の解決(紛争、環境、社会システム)

※それまでの時代に必要な学びが無くなったわけではなくて、さらに積み重なる

文明の変遷や時代背景に左右されてきた教育

- ・ 集団や社会の中で自律して生活していくため
- ・ 集団や社会を支えている一員となるため



※教育目的は、文明や社会にあわせる形で、知らず知らずにつくられてきた部分がある。

産業の変遷

第1次産業革命(蒸気機関:18世紀後半:イギリス)

第2次産業革命(電力、機械:19世紀後半:アメリカ・ドイツ)

第3次産業革命(コンピュータ、自動化:20世紀後半)

第4次産業革命(IoT、AI:近年)

シンギュラリティ(AIの知性>人間の知性)

第4次産業革命のインパクト

知的分野の労働・学習機能

あらゆる物やサービスに入り込む

人の労働者との関係性

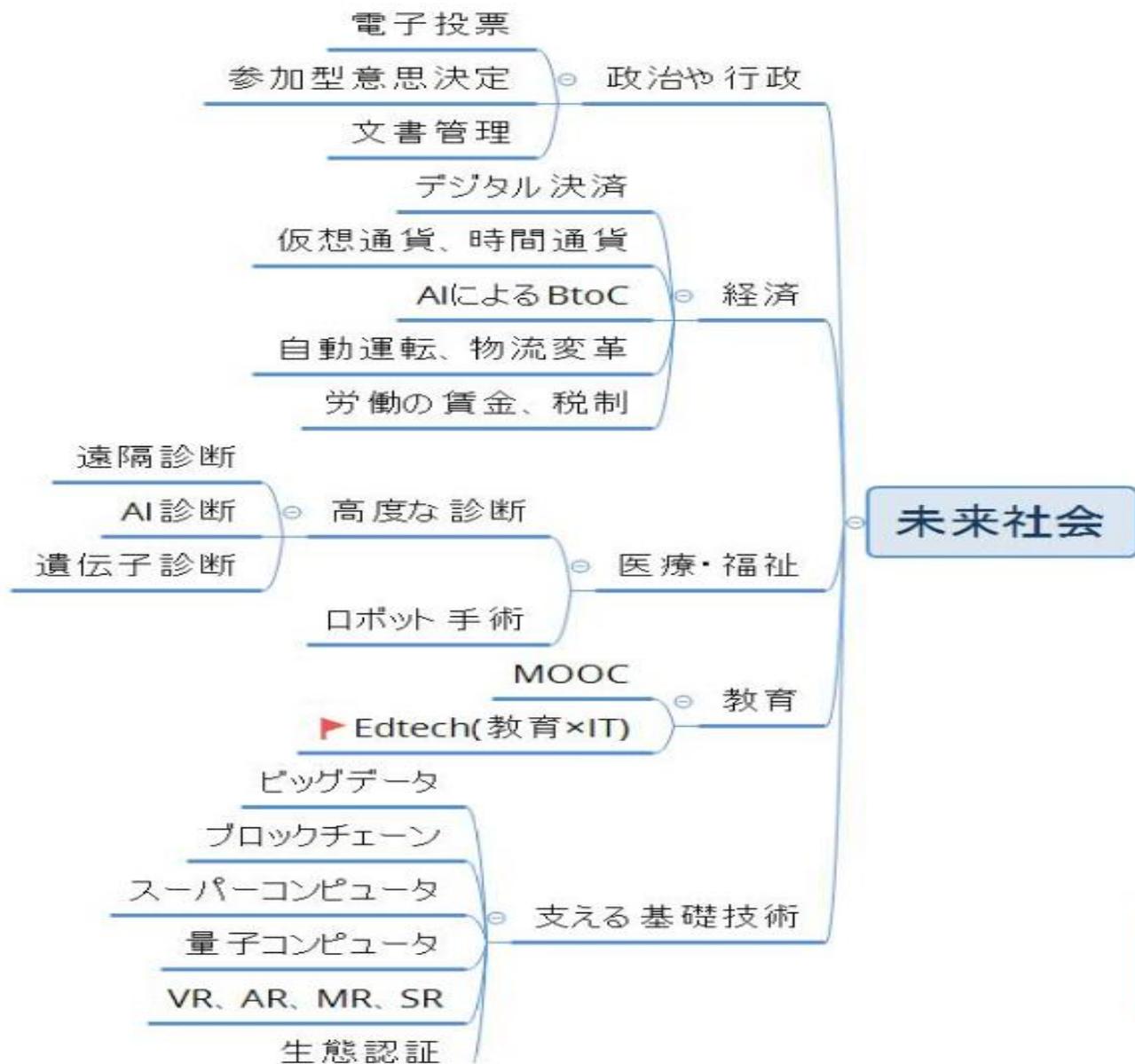
資本主義構造からの変化

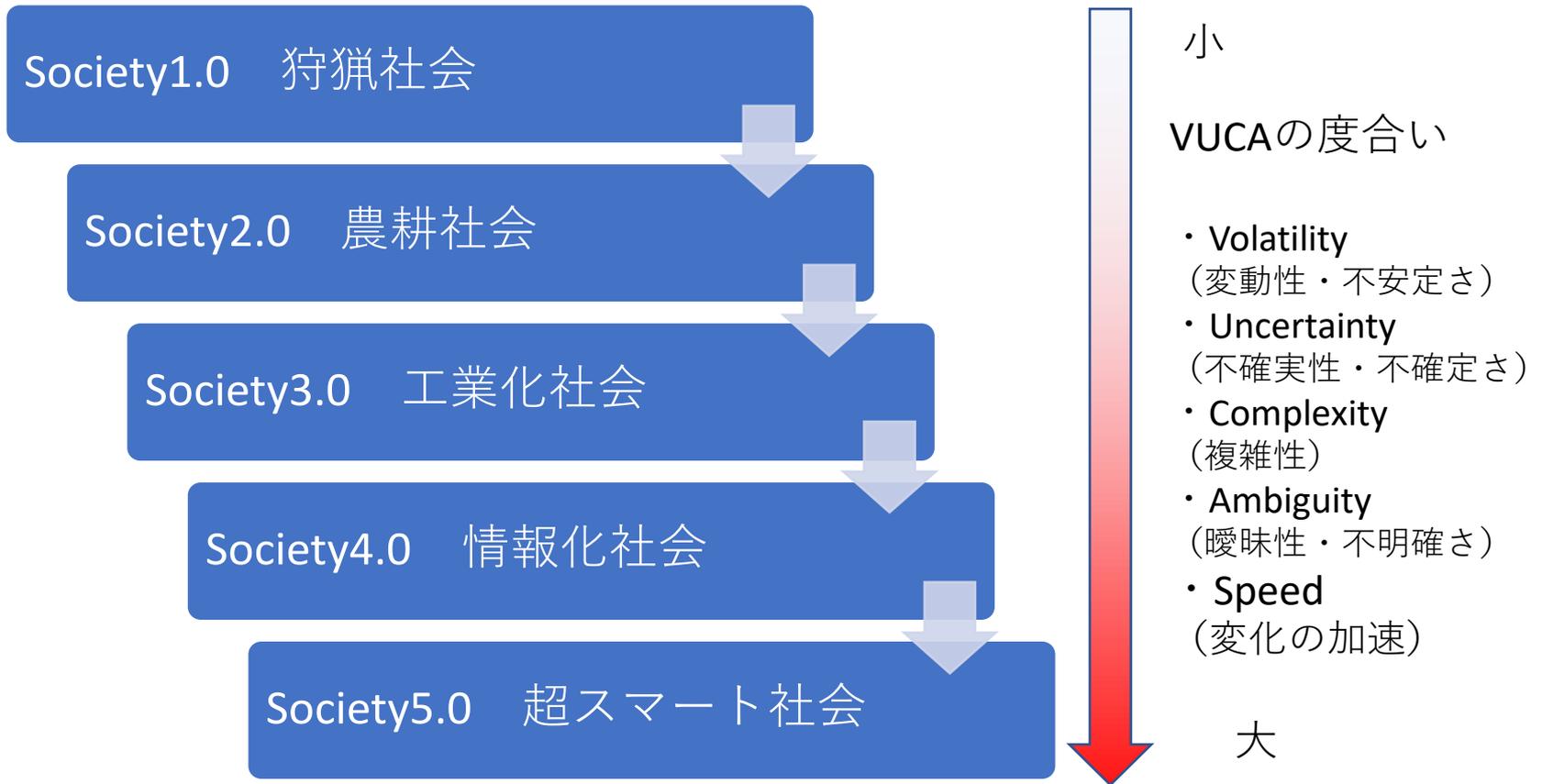
▶ 基盤となるエンジニアの必要性

産業・流通の
グローバル化

海外人材の
流入

AI・ロボット・
IoTの波





Society5.0 超スマート社会

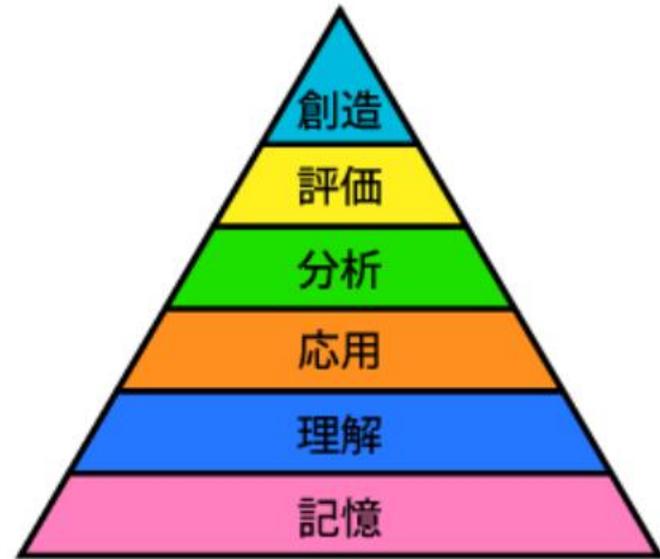
「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会のさまざまなニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といったさまざまな違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会」

このような世の中にあって
必要な力

ブルームの学習6分類

ソサエティ5.0時代に必要な力

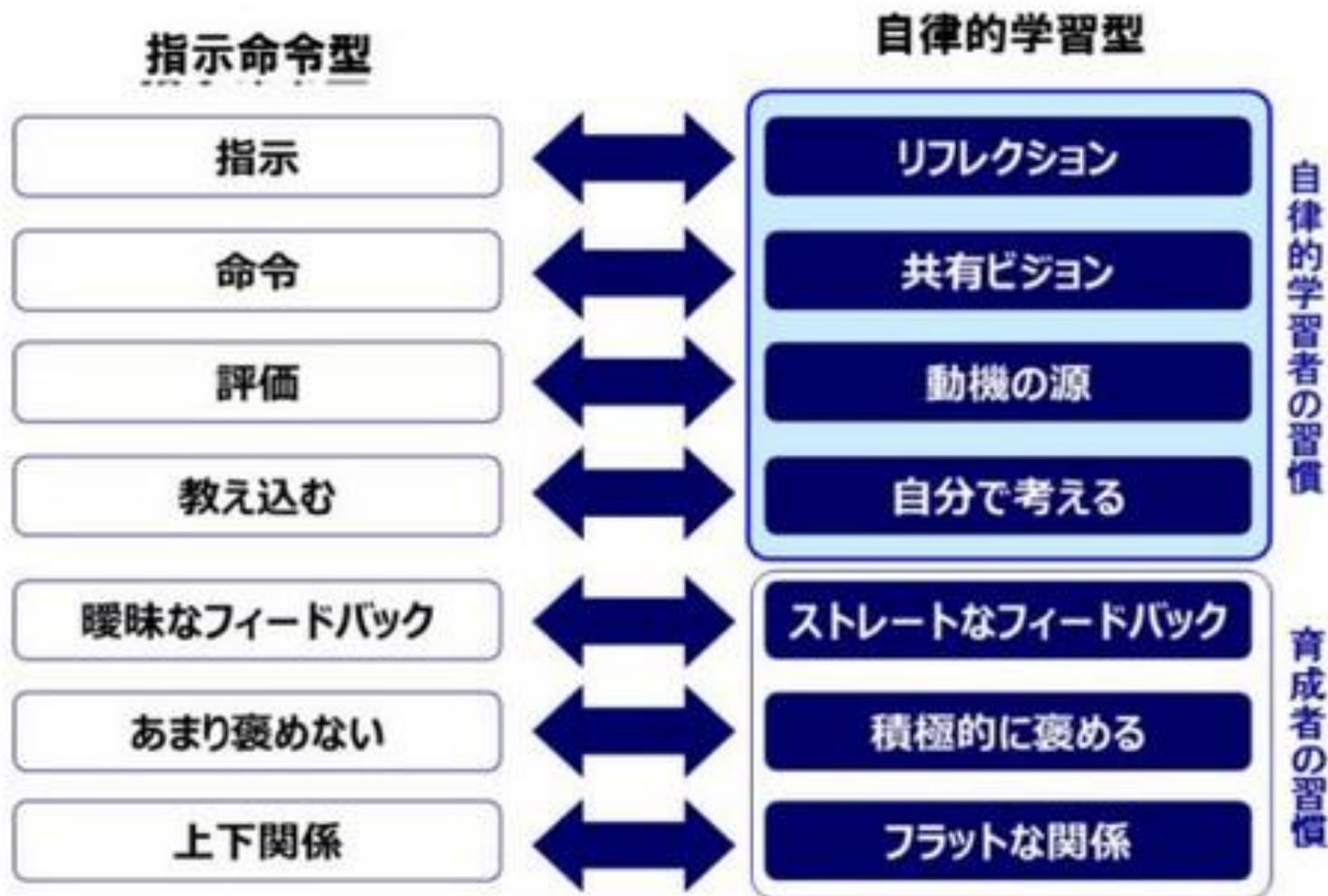
ソサエティ3.0までで必要とされてきた力



工業社会では、製品製造や管理に必要な能力は、記憶や理解まで。
ここで、命令に従順な人々が大量に教育され、管理されてきた。

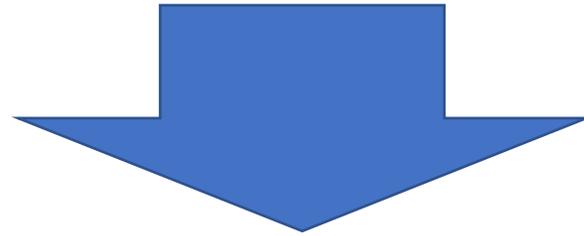
しかし、VUCA度が増す（社会がより複雑化、多様化、不安定・不確実化・スピード化）昨今においては、ブルームのいうところの「応用より以上」にある学習ができていることが求められていく。

時代が求める人材育成のあり方



21世紀学び研究所

多様で複雑で不透明な時代
他者の真似では
もはや生きていけない



自分の力で
そして他者との協業で
人生を切り開いていく

アクティブラーニング

全員がアクティブラーナー

政策的定義としてのAL

- 教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修（授業時間内だけでなく授業外も含めた学び）への参加を取り入れた教授・学習法の総称

『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』

平成24年8月28日中央教育審議会の用語集より

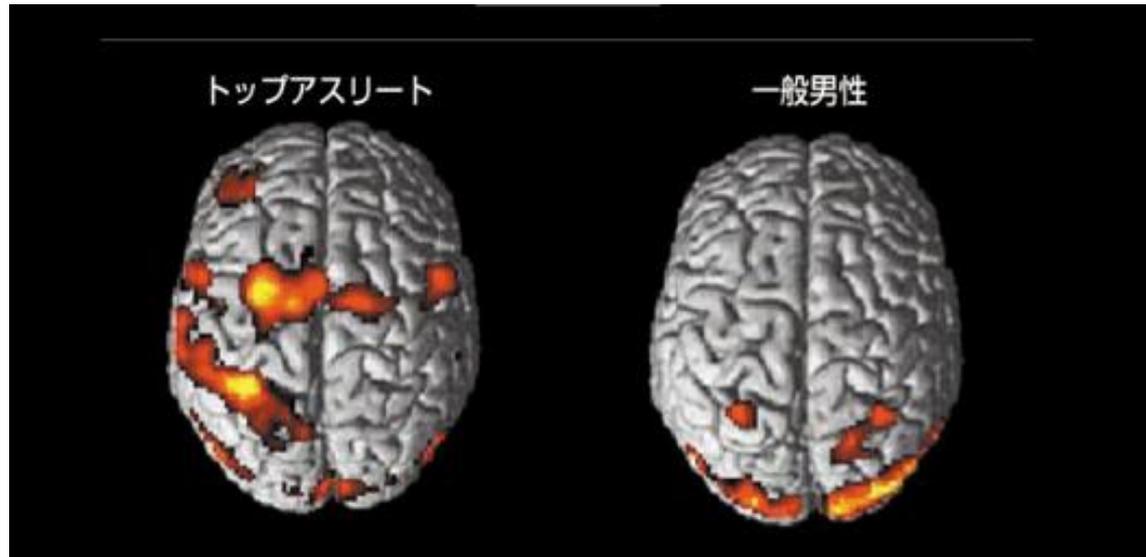
アクティブラーニングの本質とは？

→ 脳がアクティブになっているかをイメージ

脳が発火しているか否か

例) 活発に実験しているが、言われたマニュアルどおりに動いているだけ
→ アクティブラーニングではない

例) 静かに読書しているが、深く熟考している
→ アクティブラーニング状態



使える

(その知識を応用して日常などに使える)
(課題の発見・解決に応用できる)

わかる

(人に説明できる (学びの外化※))

知っている

(知識が獲得された)

思考力・判断
力・
表現力の充実

※外化：問題解決のために知識を使ったり、
人に話したり書いたり発表したりすること

なぜ、アクティブラーニングは現場で進まないのか？

- アクティブラーニングに対する誤解（本来は活動のアクティブをさしていない）
- 「どんな力を身につけさせたいか？」の検討がないまま授業が進行（内容消化が目的化）
- 教えたがりの人が教師になっている（“自分が主役で主導したい、指導したい願望”）
- 学校が模範・正解・失敗させない場

学校・先生・生徒の
アクティブラーニング
進んでいますか？

第 2 部

教育最先端事情

第2部のトピック

- 乳幼児教育の先端
 - テファリキ（ニュージーランド）
 - レッジョエミリア（イタリア）
 - 森のようちえん（デンマーク）
- 初等中等教育の先端
 - イエナプラン教育（オランダ）
- 高等教育の先端
 - ミネルバ大学（アメリカ）

テフアリキ (ニュージーランドの乳幼児教育)

『テファリキ』の特徴

テファリキの特徴は、子供達の社会的・文化的な学びや、子供達が様々な人々と関係を築くことを重視したカリキュラムです。

つまり、何歳までに何ができるというような目標に沿って行われるものではなく、「たくさんの人との関わりの中で子供を主体的に育てていこう！」という教育方針なんですね。

テファリキの理念は、『4つの原則』と『5つの要素』として掲げられています。

4つの原則

- 子供の学び成長する力 (Empowerment)
- 全体的発達 (Holistic Development)
- 家族と地域のつながりが必要 (Family and Community)
- 子供は関係を通じて学ぶ (Relationship)

5つの要素

- 子供の健康と幸せ (Well-being)
- 子供達とその家族の所属感 (Belonging)
- 子供達の貢献を価値あるものと認めること (Contribution)
- コミュニケーション (Communication)
- 体験をしながら自ら探究する (Exploration)



<https://naraigoto-kids.jp/magazine/childhood-education/te-whariki-the-education-program/>

テファリキ 2017

要素	目標	学びの成果
	子どもに以下のような環境で幼児教育を受けさせる:	月日の経過、指導と励ましにより、子どもは以下のようなことがどんどんできるようになる:
ウェルビーイング	健康が促進される	健康を維持し、自分を大切にする
	情緒的ウェルビーイングが育成される	自分のことができるようになり、自分の気持ちや要望を表現できる
	危険から守られる	自分や他者を危険から守る
所属	家族とのつながりを大切にし、外の世界を認め、広げられる	子どもの世界において、人、場所やモノとのつながりを作る
	居場所があることを知る	今の環境を大切にすることに加わる
	日々の決まった活動、習慣や定期的な行事に抵抗がなくなる	その環境下での決まりを理解し、変化に適応する
	許容される態度の限度、限界を知っている	習慣 (kaupapa) や規則、他者の権利を尊重する
貢献	学び、性差、能力、年齢、民族などのバックグラウンドにかかわらず平等な機会が与えられる	他者を公平に扱い、遊びに入れてあげられる
	個人として認められる	自分の学ぶ能力に気づき、受け入れる
	他者と協力し、肩を並べて学ぶようにすすめられる	他者と遊び、学ぶのに、色々な方法やスキルを使う

テファリキ 2017

要素	目標	学びの成果
コミュニケーション	様々な目的のために、非言語的コミュニケーション・スキルを身につける	自分を表現するために身振り手振りや体の動きを使う
	様々な目的のために、言語的コミュニケーション・スキルを身につける	口頭言語*1を理解し、様々な目的のために使う
	自分、あるいは他者の文化の物語や象徴するものを体験する	物語を聞き*2、伝え、創作することが楽しめる
		文字や記号を認識し、楽しみながら、意味や意図をもって使うことができる
		数字や数の概念を認識し、楽しみながら、意味や意図をもって使うことができる
創造性をもち表現をする方法を発見する	様々な素材や方法を使い、自分の気持ちや思いを表現する	
探究	遊びは、意味のある学びであると捉え、即興性のある遊びの重要性に気づく	遊び、想像、発明や実験をする
	身体に自信をもち、コントロールがきくようになる	自信をもって行動し、物理的に自分に課題を課す
	積極的な探求、思考、推論のための方法を学ぶ	推論や問題解決のために様々な方法を用いる
	自然界、社会、物理的あるいは物質的な世界を理解する上で、つじつまの合う理論を考える	つじつまの合う理論を作り、練り上げ、この世界を理解する

テフアリキはどんな形で実践されている？

では、テフアリキはどんな形で実践されているのでしょうか？ テフアリキの4つの原則と5つの要素をもとに行われている実践例をいくつかご紹介します。

○ 1. のこぎりや金づち、釘などを使う“体験を通した遊び”を積極的に

危ないからといって遠ざけるのではなく、安全を確認しながらの大工遊びを子供達が楽しんでいるそうです。友人との共同作業で協調性が育まれるだけでなく、一人一人がさまざまなことを試し、自分で考えていく過程を通して学びを得るのですね。

○ 2. 集団行動しなくてもOK！個人の『得意なこと・やりたいことを尊重』

子供の個性を大事にするテフアリキでは、一人でやりたいことに取り組むことも尊重します。集団に入らず、黙々とままごとをやっている子がいてもじっくりと見守り、子供の興味や創造性を大切にしているのですね。

○ 3. 遊びや発想の成長過程を『観察記録（ラーニングストーリー）』に

担任の先生は、子供達の様子をデジタルカメラに撮影して写真と文章で残していく観察記録、『ラーニングストーリー』を作っているそうです。子供がチャレンジしたこと、興味をもって取り組んだことなどを見て、親も一緒に関わり方を考えるきっかけになります。子供達に対する温かいまなざしが『ラーニングストーリー』には溢れています。

レツジヨ・エミリア
(イタリアの乳幼児教育)



レッジョ・エミリア・アプローチってどんなもの？



「レッジョ・エミリア・アプローチ」は、イタリアのレッジョ・エミリア市発祥の幼児教育実践法。個々の意思を大切にしながら、子どもの表現力やコミュニケーション能力、探究心、考える力などを養うのを目的としています。1991年に“世界で最も優れた10の学校”に選ばれた学校が実践していたことから、世界的に有名になりました。

レッジョ・エミリア・アプローチの理念

子どもたちそれぞれの意思や個性を尊重し、個々の感性を生かすことが最も重要であるという理念のもとに実践されています。



【特徴1】 自主性と協調性を育むプロジェクト活動

レッジョ・エミリア・アプローチの特徴のひとつに「プロジェクト活動」という保育の取り組みがあります。これは1つのテーマを、長い場合は数カ月～1年といった長期間、子どもたちや保育士、保護者が一体となって掘り下げていく活動。

例えば展覧会に向けて作品を作る場合、子どもたちが「個人で作るのか、みんなで作るのか」「何を作るのか」「どのように作るのか」など小グループで話し合いながら進めていきます。保育士は指示を出すのではなく、その話し合いに対等に参加し、保護者にも状況を共有して理解を求めます。

◆プロジェクト活動のメリット

- 自分の考えを主張する自主性が身に付く
- 友人の意見を聞き、話し合って進めていく協調性が身に付く
- 思い通りにならないことから、自分の気持ちを調整する力が育つ
- 自分たち自身で目的を見つけ出す探究力が育つ
- 共同活動の中で自分の役割を見出し理解できる



【特徴2】 美術専門家の配置にアトリエ…創造性を育む環境



レッジョ・エミリア・アプローチでは、アトリエリスタ(美術専門家)とペダゴジスタ(教育専門家)というプロフェッショナルスタッフが配置され、保育士といっしょに子どもの創造的活動を支援します。

また、子どもたちには自由に使える共同広場「ピアッツァ」や、「アトリエ」といった空間が用意されており、本格的なドラムセットやパソコンから、自然の木の枝や小石まで、様々な教材・素材が常に用意されています。



【特徴3】記録を活かしたドキュメンテーション



もう一つ独特な取り組みが「ドキュメンテーション」。これは子どもや保育士の会話や活動の様子を、メモや録音、写真、動画として記録し、パネルなどにして誰もが目にすることができる場所に掲示する取り組みです。

通常の保育の記録と異なるのは、その情報が、保育士さんの業務の振り返りなどに活用されるだけでなく、子どもたちにとっても、次の学びに活かす、振り返りを行うきっかけになっていること。また地域や保護者にも見える形で掲示されることで、より広いコミュニケーションが生まれる仕組みになっています。

この教育から感じたこと

発見したことは何ですか？

【福島の気づきレポート】

たくさんの人との関わり

プロジェクトでつくる

プロジェクト型学習

暖かいまなざし

子どものペース
や主体性

アクティブラーニング

成長をしっかり記録

eポートフォリオ

アートとのつながり

親もまた学ぶ

興味を持って関わる

森のようちえん
(デンマークの乳幼児教育)

1. 「森のようちえん」とは

自然体験活動を基軸にした子育て・保育、乳児・幼少期教育の総称

2. 「森のようちえん」という名称について

【森】は森だけでなく、海や川や野山、里山、畑、都市公園など、広義にとらえた自然体験をするフィールドを指す。

【ようちえん】は幼稚園だけでなく、保育園、託児所、学童保育、自主保育、自然学校、育児サークル、子育てサロン・ひろば等が含まれ、そこに通う0歳から概ね7歳ぐらいまでの乳児・幼少期の子ども達を対象とした自然体験活動を指す。

3. 「森のようちえん」の主な活動形態

(1) 認可幼稚園・認可保育園

自然散策や遠足、お泊まり保育、畑の活動などの自然体験活動

(2) 自主保育や共同保育、育児サークル、子育てサロン・ひろば

野外を中心とした自然体験を意識した保育活動など

(3) 認可外保育施設・NPO法人などによる幼児教育や保育活動団体

自然体験を意識した幼児教育など

(4) 自然学校や自然体験活動団体、青少年教育施設、社会教育施設

さまざまな野外活動プログラムを活かした幼児教育

4. 「森のようちえん」活動に関わる人たち

幼稚園教諭、保育士、自主保育指導者、学童保育指導者、自然体験指導者、野外活動指導者、自然の中での幼児教育や保育を望む親など。

森のようちえんが大切にしたいこと

自然はともだち?

- 自然の中で、子ども、親、保育者が、共に育ちあうこと
- 自然の営みに合わせるということ
- 保育や福祉の仕組みを理解し、日本の保育や子育て全体に貢献すること

いっぱい遊ぶ

- 自然の中で、仲間と遊び、心と体のバランスのとれた発達を促す。

自然を感じる

- 自然の中でたくさんの不思議と出会い、豊かな感性を育む。

自分で考える

- 子どもの力を信じ、子ども自身で考え行動できる雰囲気をつくる。



カリキュラムは一切なし。何をやるかはすべて子供たちが決める！

森のようちえんのもうひとつの特徴は、子供たちの自主性を尊重した保育を行っていること。なんと、日本のように決められたカリキュラムはありません。子供たちは好きなことを楽しみながら、一日を過ごします。なんて自由でのびのびした環境なのでしょう・・・！



<http://www.haconiwa-mag.com/magazine/2017/11/mori-no-yochien/>

【福島の気づきレポート】

“自然”が子どもを育てる力を信頼する

強制されず、自分で決める習慣を身につける

興味をもったことに集中し、やりきる

五感の刺激

失敗もまた学習

イエナプラン教育 (オランダの初等教育)

公式DVDで見るイェナプラン教育



イエナプラン教育の特徴

1. 異年齢クラス編成（3学年がいっしょ）
2. 4つの基本活動（会話・仕事・遊び・催し）を循環させる
3. リビングルームとしての環境づくり（教員と生徒が学びやすい環境を創造）
4. ワールドオリエンテーション（理社中心の総合学習）
5. インクルーシブ教育（健常児・障害児がともに学ぶ）

【福島の気づきレポート】

ダイバーシティ
(性別や人種、年齢、性格、
価値観などの多様性を受け
入れ、広く人材を活用す
る) の考え方の実現

インクルージョン (組織内の誰にで
もビジネスの成功に参画・貢献する
機会があり、それぞれに特有の経験
やスキル、考え方が認められ、活用
されていること) の考え方の実現

学びと生活を分離させない

学び方を学ぶ
自分にあった学び方の開発

ミネルバ大学 (アメリカの高等教育)

山本秀樹(著)

世界のエリートが
今一番入りたい大学

ミネルバ

Minerva Schools at KGI

Nurturing Critical Wisdom for the Scale of the World

- ☐ 校舎がない：4年間で世界の7都市をめぐる
- ☐ 教師は「講義」も「テスト」もしない
- ☐ 全寮制なのに、授業はすべてオンライン

ハーバードやスタンフォードを
超える人材が

なぜ、この「ありえない」大学に殺到するのか？

ダイヤモンド社



MINERVA SCHOOLS AT KGI

UNDERGRADUATE
PROGRAM

Academic Programs
Global Experience
Career Development

Admissions
Tuition & Aid
Application

Preparing to succeed in an era of global uncertainty requires developing your intellect, building your character, and learning practical capabilities.

UNDERGRADUATE PROGRAM/

ミネルヴァ大学には「キャンパス」がない

授業はすべてオンライン

ミネルヴァ大学の授業は、すべてオンラインで行われる。しかし、不特定多数に、一方通行の講義をネットで遠隔配信するだけのオンライン大学ではない。20名以下の少数編成のクラスだが、生徒たちは一同に介して、教授の話を聞き、ディスカッションを行う。

つまり、離れた場所にいる教授が、生徒の集まる教室に「チェックイン」する形式。

効果を出すためのオンライン化

オンライン化することで、講師のモニターには一人一人の表情、作業の手元がはっきり映り、やる気や理解度が手に取るようにわかる。また、個人の発言時間を自動的に計測し、発言量のバランスも見ながらクラスを進行できる。音声は自動筆記で即時にテキスト化されるのでフィードバックも早く確実になる。

つまり、深い学びを効率良く進めるためのオンライン化を行うという考え方。一般的なオンラインスクールとは逆の発想。

図表23 | 投票結果から学生同士のディベートが始まる：発言している学生や注目したい学生の画面を拡大表示することもできる



ミネルヴァ大学のキャンパスは「世界」

4年間で7か国を移動

上述の通り、授業はオンラインだが生徒たちは全寮制。グループで行うプロジェクトやクラブ活動は生徒たちが仲間とともに行えるようになっている。

さらに、寮の場所は4年間で世界の7カ国を移動する。

ミネルバ大学のカリキュラムでなんといっても魅力的なのがこの点。

- 1年目 - サンフランシスコ (米国)
- 2年目 - ソウル (韓国)、ハイデラバード (インド)
- 3年目 - ベルリン (ドイツ)、ブエノスアイレス (アルゼンチン)
- 4年目 - ロンドン (英国)、台北 (台湾)

各都市で学ぶ内容も変わる

滞在都市にある最新の研究施設や芸術施設、図書館などを利用し、企業との共同プロジェクトを実施できる。

都市ごとに学びのテーマがあり、抽象論ではなく実際に、各都市で学ぶ事柄が大きく変わる。

つまり、学期が変わるごとに生活も変わり、学びも変わる。そんな刺激的な環境で成長することができるのだ。

ミネルヴァ大学の入学試験

ミネルバ大学への出願は毎年増えているが、要求水準がとて高いミネルバ大学は、とても狭き門。合格率が2%を切ることも。

ミネルバ大学の入学試験は大きく3つの部分に分かれている。

パート1 : Who You Are

ミネルバ大学のWebサイトで名前、メールアドレスや学歴などの基本情報を記入。「出願用アカウント」を作成する。個人が複数のアカウントを使って受験することは固く禁じられており、発覚した段階で不正とみなされる。また、出願が認められているのは各年度に1回。

パート2 : How You Think

How You Thinkでは、出願生の考え方が問われます。TOEFLやSATなどの外部試験は用いず、独自の問題を用意している。出題分野は大きく6つ。

- Creativity (創造性)
- Mathematics (数学)
- Understanding (理解力)
- Reasoning (論理力)
- Writing (表現力)
- Expression (面接)

これらの設問には全て約7分～20分程度の時間制限がついており、質問にはその場で答えなくてはいけない。また、設問の体裁は共通していても、質問の内容は受験生によって異なるので、オンラインだからといって不正をすることは難しい。

パート3 : What You Have Achieved

出願生自身の過去の功績についてアピール。自身の成し遂げたことを列挙し、それらが周りの人々や社会へどのような影響を及ぼしたか、ということを簡潔（数行）かつ可能な限り定量的に自己評価する。功績の証拠となるもの（画像、動画、リンクなど形式は問われない）も提出する。

文章力でごまかせる他大学のエッセイと違って、ごまかす余地がない。（表現力は既にHow You Thinkで問われているので、What You Have Achievedではそれは評価されない。）

定員の枠を争う相対評価ではない

ただし、一つ付記しておきたいのは、ミネルバ大学には「定員がない」ということ。つまり、限られた席を優秀な学生同士で取り合っているわけではない。

相対評価で決まった数の学生を選ぶのではなく、一定のハードルのような水準を用意しており、その要求水準を超える学生は全員合格。

ミネルヴァ大学では何を学ぶのか？

ミネルヴァで1年過ごした学生は、アイビーリーグの3年生や4年生が競い合うようなインターンシップを容易くこなすといわれている。そしてその理由は、ミネルヴァの「カリキュラム」にあるといわれている。

カリキュラムは、以下4つのテーマに沿って全てが組み立てられている。

1. どうすれば社会の重要な課題を発見できるか
2. 課題に対するクリエイティブな解を見つけられるか
3. 解を実現可能なレベルに落とし込めるか
4. 課題と解について人に上手く伝達できるか

例えば、サンフランシスコで過ごす1年次は、教養課程のような共通の授業を受けるが、ここでは、そのためにまず物事の見方の120パターンの癖を矯正し、4つの学びの基本コンセプトを学ぶ。

- 分析 統計手法、論理、意思決定判断、シミュレーションなど
- 複雑系 互いに関係しあう要因を観察する
- 実証分析 仮説を立て、調査・実証してみる
- 修辞学 多様なコミュニケーション方法を探る

ミネルヴァ大学の学費は高くない

比較的安価なミネルヴァの授業料

年間の授業料は1万2950ドル（約145万円）、寮費は1万ドル（約100万円）と決して安くはないが、全米の名門私学大学が4万～6万ドルの授業料であることを考えると比較的良心的。奨学金も潤沢に給付している。

このような価格は、学生寮以外にはキャンパスなどの施設を持たないため設備投資が不要であることに起因している。

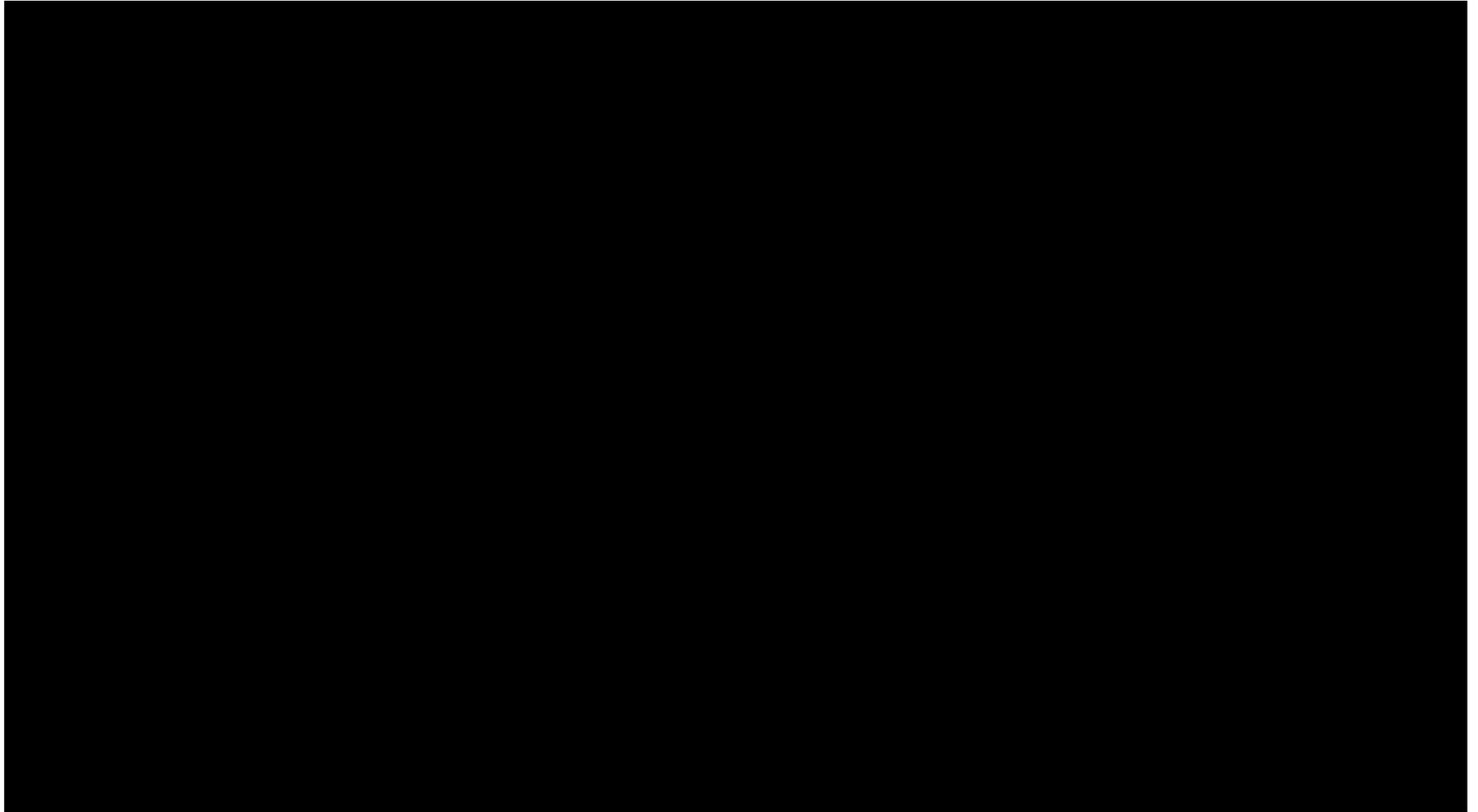
利益創出の事業も同時に手がける

オンラインで行われる講義にシステム的な工夫が行われることは前述の通りだが、教授たちの準備も入念だ。ミネルヴァでは、1.5時間のレスンプランを、なんと100時間も費やして開発しているという。

このようなカリキュラム開発のコストがそのまま授業料に転嫁されたのでは、とてもではないが年間1万2950ドルの授業料では収まらない。

実は最先端のテクノロジー開発や、カリキュラム開発は、全てミネルヴァのfor-profit wing（利益追求を目的とする関連会社）が手掛けている。この会社はVC等から投資を受け、将来的には他の教育機関へライセンス契約をすることでリターンを上げていくという計画。

YouTube公式チャンネルによるミネルバ大学PV



ミネルバ大学合格者 片山さんの記事

世界最高峰・ミネルバ大学に通う
私は「こうして」育ったー片山
晴菜 #私のライフラインチャート

2018年10月1日



http://u-29.com/2018/10/01/haruna_katayama/

第3部

組織論とエデュケーショナル・
リーダーシップ

第3部のトピック

- これからの組織論
- 教育のリーダーシップが明日の社会を創る
- 教育のリーダーシップ その在り方とは

「ティール組織」

フレデリック・ラルー著

～これから読む方

まだ読み終わってない方への 道先案内 ～



2018/2/18 英治出版セミナールームにて

進化(ティール)型の特徴

“人生の究極の目的は成功したり愛されたりすることではなく、自分自身の本来の姿を表現し、本当に自分らしい自分になるまで生き、生まれながら持っている才能や使命感を尊重し、人類やこの世界の役にたつこと” p76L10

恐れや野心などのエゴに埋没せず
に、人生の豊かさを信頼する

欠点を見るのではなく長所を生かす

意思決定の基準が、外的⇒内的
(内面の価値観に照らし合わせ、誠
実さや自分らしさから行動)

挫折や失敗、障害は何かを学
べる機会とみなす

第Ⅱ部 進化型組織の構造、慣行、文化

第2章 自主経営/組織構造 p100-163

ESBZ(小学校、ドイツ、生徒1500人)の事例紹介 p155-163

どんな現状だった？

- ・世界で子どもは、事前に決まったカリキュラムに従って自動的に押し流される交換部品。型にはまった子どもが卒業し、はまらなかった子どもは途中で放り出される
- ・ESBZ 生徒は16名 ほとんどが問題児

何をした？

- ・2007年にベルリンで開校
- ・元理科教師マーグレット・ラスフェルトが中心に立て直した
- ・創立理念：“子どもは一人一人が個性的存在で、誰もが他の人に貢献できる才能を持ち、全員が人として価値があり、評価され、必要とされている”の元、教育活動を展開した



結果、どうなった？

- ・生徒数500名
- ・全国から視察

<http://www.ev-schule-zentrum.de/aktuell/>

第Ⅱ部 進化型組織の構造、慣行、文化

第2章 自主経営/組織構造 p100-163

ESBZ(小学校、ドイツ、生徒1500人)の事例紹介 p155-163



生徒の取り組み

- ・自分の学習に責任を持ち、自分で学ぶか互いに教えあう
- ・各教科は小さなテーマで区分され、理論・演習・テストを単位として段階的な学習
- ・一人でもグループでも学んでよい
- ・7年生～9年生と一緒に学ぶ「学習者」「先生」が入れ替わる
- ・自閉や学習障害も一緒に学ぶ
- ・日誌で日々の成果を記録
- ・毎朝2時間の基礎教科学習＋課題解決プロジェクト(チェスを教える、老人ホームで働く、幼稚園で劇を企画など)
- ・8年生～10年生は「挑戦」というクラス。3週間の特別セッションを企画・準備
コンフォートゾーンから抜け出す時間(森林でのサバイバルキャンプ等)
- ・10年生～12年生は、国家試験準備期だが、現在、斬新なプログラムを策定中

第Ⅱ部 進化型組織の構造、慣行、文化

第2章 自主経営/組織構造 p100-163

ESBZ(小学校、ドイツ、生徒1500人)の事例紹介 p155-163

教師の取り組み

- ・助言者兼コーチ、学習のペースメーカーの役割
- ・子どもの相談相手、ほめる、意見や感想や異議を唱える
- ・一方通行、一斉授業廃止
- ・毎週金曜に生徒面談 1週の振り返り、課題の進捗や次週の計画支援
- ・どのクラスも担任2人体制。3つのクラスでミニスクール構成。6人職員で会議し、日々の問題や素晴らしい機会に対応できる。
- ・ミニスクールでは校長の承認得ずに、ほとんどあらゆることを決められる。

保護者の取り組み

- ・1か月に3時間、学校への奉仕
何をどうするかは、すべて自主運営の原則に基づく
校舎リノベーションチーム、ワークショップ開催

“主導権を握る管理職がもはやいないとすれば、どう意思決定すればよいのだろうか？ だれが会社の資金を使えるのか？ 実績はどのように測定、評価されるのか？ 従業員の手抜きを防ぐにはどうしたら良いか？ 誰が昇給し、だれが賞与を得られるかを誰が決めるべきなのか？” p164L11

意思決定－助言プロセス

・原則として、組織内の誰がどんな決定を下しても構わない。ただし、その前に、すべての関係者とその問題の専門家に助言を求めなければならない(助言プロセス)

- ・意思決定者は、助言をすべて受け入れる義務はない
- ・意思決定者は、助言は真剣に検討しなくてはならない
- ・判断の大きい内容ほど、助言を求める対象者は広がる
- ・通常、意思決定者は、その問題や機会に気づいた人や最も影響を受ける人

意思決定—助言プロセス

助言プロセスのメリット

- 自由にいつでも必要に応じて意思決定できる
- 利害関係者に意見を述べる機会がある
- コンセンサスに委ねる苦痛・時間の回避

トップダウン(階級上位者) 決定のデメリット

- ×トップはすべての専門分野の知識を持ち得ていない(誤判断の可能性)
- ×現場の意見が反映されない
- ×練った案もくつがえされたりする

ボトムアップ(全員コンセンサス) 決定のデメリット

- ×人数が多いと合意が難しい
- ×時間と労力がかかる
- ×責任の所在が不明確

意思決定－助言プロセス

助言プロセスのその他のメリット

- ・助言を求められた人の関心を引き付け、助言を求められたことを光栄に思う
- ・助言を求めることは本人の謙虚さにつながり、助言を求める・答えることがコミュニティでの関係性を強くする
- ・意思決定する実地訓練になる その場での実践的フィードバックを得られる
※だれもが責任あるリーダーとなる上で必要な要素
- ・従来のトップダウンアプローチよりも最適な判断になる確率が高い
- ・組織内の知識豊富な人からの得られた知恵によって実践力と創造力が刺激される楽しい体験であること

意思決定—助言プロセス

助言プロセスの方法

1対1のインタビュー

関係者を招集
しての会議

社内SNSを使って
提案を呼びかけ
て、回答を促す

1人の助言が厳しかつ
たり、わからなかった
ら、さらに助言者を
追加してOK

意思決定－助言プロセス

危機発生時の助言プロセス停止

FAVIの例)

発注の激減→臨時社員の解雇という手段？
しかしそれは人材を失うこと

“全従業員に対して自分の抱えるジレンマを話したのだ。
ゾブリスト(CEO)と聴衆の社員たちは質問や提案を叫びあった。ある作業員が、「今月私たちは三週間だけ働き、三週間分の給料をもらって臨時社員をとどめておくことができるのではないのでしょうか？」……驚いたことに、一人残らずこの案に賛成した。・・・1時間もたたないうちに問題は解決し、機械の騒音が再び工場中に響き渡った。” p173L2

危機発生時に助言プロセスを一時停止する必要があるときの指針

- ①トップダウンによる意思決定の及ぶ範囲と時期を完全に透明にすること
- ②危機が去った後も権力を行使し続けるのではないかと疑われるような人物を指名しない

意思決定－助言プロセス

購買と投資時

- ・原則として誰でもいくらでも使ってよい
- ・ただしその決断の前に必要な助言を求めなければならない
- ・購買物品の価格が高いほど、助言プロセスには多くの人がかかわる
- ・社員間で調整が必要な時は、すぐ調整を始める(共同購入メリットなど)
- ・基準を決める必要が出たら、誰かが手をあげて規準をつくるグループを立ち上げればよい

意思決定—助言プロセス

暗黙の前提を明らかにする

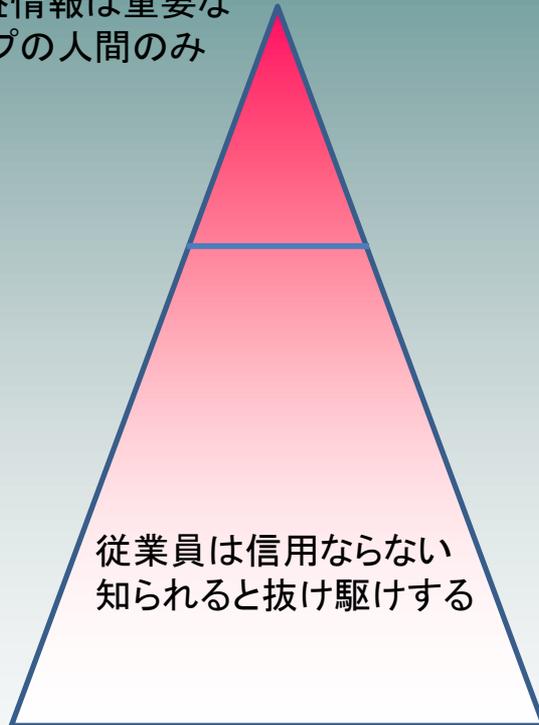
働く人への統制型	働く人への信頼型
もっぱらお金のために働く	創造的
重要問題に正しい判断はできない	思慮深い
時に盗む、怠惰、安心して任せられない	信頼に足る大人
交換可能な部品のような存在	才能やスキルで世に貢献
↓ ↓	↓ ↓
恐れは恐れを生みだす	信頼は信頼を育てる
組織には階層と統制が必要	階層も統制も必要ない

“私たちの多くは、人々と仕事について心の中に深く刷り込まれた前提から逃れられないでいる。・・・私たちはそれとは異なる前提を選ぶことができる” p183L12

内部のコミュニケーション

非ティール型

有益情報は重要な
トップの人間のみ



上層部は何か隠している！

ティール型

情報は財務、給与やチー
ム成果含めてオープン

情報公開なければ
なぜ隠すの？という
マインドに

誰かが知り、
誰かが知らない
状況は階層を作り出す

どのチームも入手可能なあらゆる
情報を得る必要がある

内部のコミュニケーション

例) ビュートゾルフ (オランダ 地域看護の会社)

- ・全チームの成績がイントラネットで公開
- ・成績が悪いチームでも状況を受け止め、解決策を探す力があると信頼する
- ・苦戦しているチームは、近隣で成果をあげているチームに助言を求められる
- ・不満や疑問は公然と公表される
- ・経営陣は公平、謙虚、弱さを見せる勇気をもっているか 問われる
- ・情報開示というリスクが高いその中に、組織が拠って立つ前提を再認識、信頼を強化する力が眠っている

組織を構成する個人が自律的に行動する
かつ、共通の目的意識は共有している
日本の公教育改革の例

学校の「当たり前」をやめた。

生徒も教師も変わる!
公立名門中学校長の改革

千代田区立麹町中学校長 工藤勇一



学校の「当たり前」をやめた。 — 生徒も教師も変わる! 公立名門中学校長の改革 — 単行本 —

2018/12/1

工藤 勇一 (著)

★★★★☆ ☆ 11件のカスタマーレビュー

ベストセラー1位 - カテゴリ 教育学一般関連書籍

> その他 () の形式およびエディションを表示する

単行本

¥ 1,944

公立中学が挑む教育改革

2017年11月1日

「話を聞きなさい」なんて指導は本当は間違っている

公立中学が挑む教育改革 (1) 千代田区立麹町中学校・工藤勇一校長インタビュー
多田慎介 (ライター)

▶ 著者プロフィール ▶ ツイート ▶ シェア 1.4万 ▶ 印刷画面 ▶ A ▶ A

東京のど真ん中に、一風変わった校長先生がいる。全校集会ではパワーポイントを使って生徒たちに「プレゼン」し、夏休みに課す宿題は最低限の作文だけ。外部企業や研究者、大学生などを巻き込んだ「オープンイノベーション」にも積極的に取り組む。驚かされるのは、その舞台が公立中学校であることだ。自由な裁量がほとんどないと思われる公立校で、変革に向けた新たな施策が次々と導入されている。その実像を追った。



千代田区立麹町中学校校長・工藤勇一氏

麹町中学校
工藤校長のインタビュー
シリーズで掲載

YouTube 麴町中学校

EdmodoCon Japan 2018

【まとめ】

学校・生徒・保護者、全員が
目標と手段の合意形成を図りながら
主体的に学校改善に努力してきた

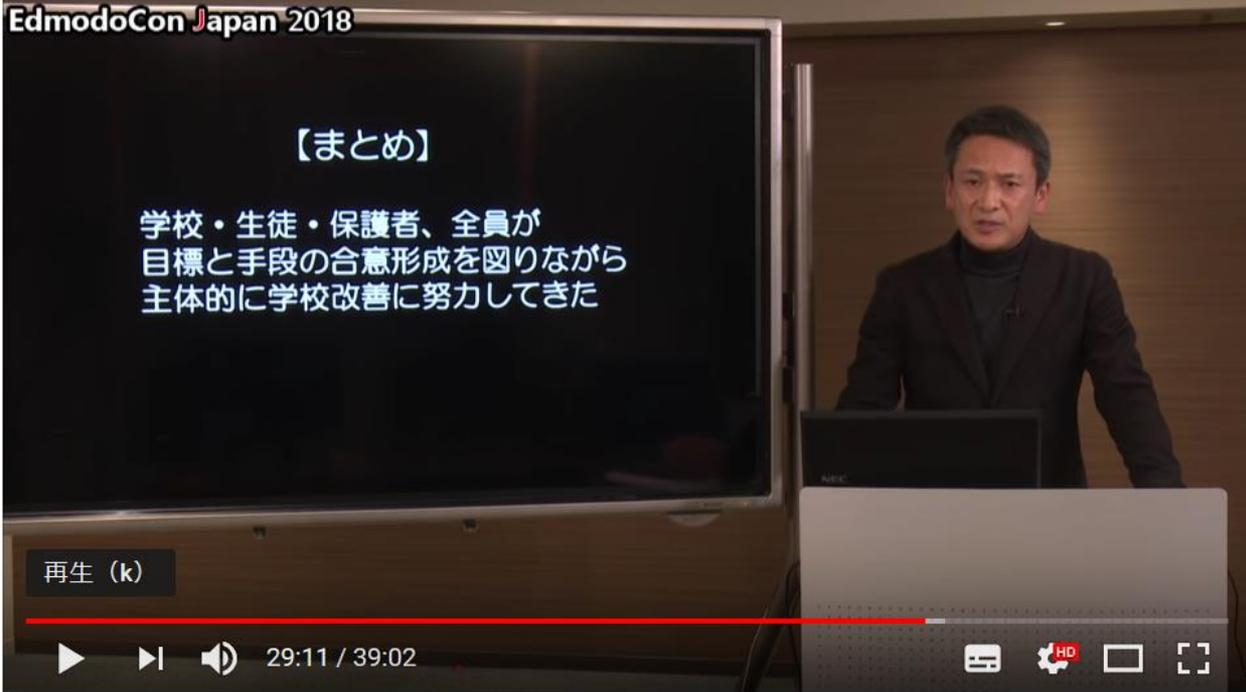
再生 (k)

29:11 / 39:02

EdmodoCon Japan2018

1,956 回視聴

36 2 共有 保存



https://www.youtube.com/watch?v=759Saq3YP_c

勉強よりも「幸福」を教える学校、 2020年にインドで開校予定

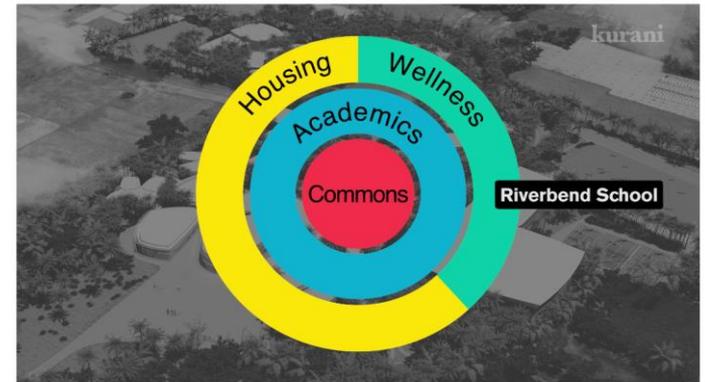
12月11, 2018

by Kana Yamashita

in ニュース

Riverbend School

By Kurani | February 12, 2018 | Learning Spaces, Urban Spaces



インド東部のチェンナイに2020年開校予定のこの学校の名前は、リバーベンドスクール（Riverbend School）。
“偉大な功績と素晴らしい人生は、従来の教育ではあまり教えられていない「感情的知性」と「個人的幸福」が基礎になっている”との考え方から、アカデミックな学習よりも生徒の自主性や幸福度を高めることを第一に優先している。

学校の共同設立者であるヴィヴェック・レディ氏は、「人の気持ちに共感し、世界に積極的に還元していくような
ハッピーな生徒たちを育てていきたい。」と語る。

<https://ideasforgood.jp/2018/12/11/riverbend-school/?fbclid=IwAR3-DUkJkQF0foBHZiHa2h-IEofJSLDbao5qLUH3C6WTgDiQTjuKaXLUDL8>

PVは [こちら](#)

エデュケーショナル
リーダーシップ

教育のデザインが

次世代の社会をリードしていく

従来

社会の要請に合わせて、
教育がデザイン
されてきた（受動）



これから

ありたい未来を創るために
教育がイニシアチブを取る
（能動）

※エデュケーショナルリーダーシップは、福島が考えた造語です

そのためには
大きなパラダイム転換が
必要

教師が正解を示す



最適解をみんなで探す
先生も学び手の一人

定番・セオリーを
やり方を通す



起きたことを振り返り、
常に修正する

トップがビジョンを
考え、示す



トップは最終判断はするが、
創る過程では全員参加

成功例は学校の強み
として保持する



成功例は、外部に
積極シェアする

教育の未来予想

こう変わっていく（かもしれない 主観です）

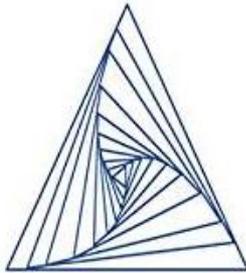
- 学習の個別化多様化
（全員一斉、同一ペース⇒選択的な分野・スピード・方法で）
- 学校ではその設備や仲間がいないとできない学びが中心となる
（専門設備、対話相手）
- オンラインとリアルの学びの場の融合（適材適所な使われ方）
- 「学び方の学び」、経験学習サイクル、振り返りなどが重視されていく
- 学歴⇒学習歴社会へ
（大学ブランドよりも、何を学び、身に着けたか）
- 社会に出る前に安心して失敗できるのが学校
（ある意味、社会の縮図になっている環境）
- 学校を卒業しても生涯学び続ける社会

福島の今後の構想

思想が社会をつくっていく
これからの未来に必要な思想・考え方とは？

"ミライ"との対話 ～30夜物語～

宇宙思想家 福島 毅



"ミライ"との対話～30夜物語～

2018/8/25

福島 毅

Kindle版

¥ 0 kindleunlimited

第26夜 未来の教育

マコト：「未来社会がどうなっていくか？ということで一番興味があるのが、”教育”。いままでの社会の話題の中でも何度となく教育のことがでてきた。いま、僕が高校生であるということもあるのだけれど・・・」

ミライ：「そうだね。教育の変革は今後いろいろあるのだけれど、とりえず地球の確実な未来について言えば、いずれ今のよ様な”学校”というものは、なくなるよ」

マコト：「えー！ そうなの。それ、結構衝撃だなあ。今のようなののは？」

ミライ：「簡単に言うと、学びの方法がもっと多様になるということだ。今は、ある年齢に達すると、小学校、中学校、高校というようにみんなが何の疑問も持たずに一斉に同じ方法で、同じペースで、固定した人から学んでいる。これがもっと流動的になるということ」

この冬

続編を執筆

“ミライ”との対話
～日本とは日本人とは～

Amazonにて発売中

小さな一歩

あなたは何かから踏み出しますか？